

日本農業新聞

農協改革に現場の声を

J Aグループ山形

自民党国会議員、県議と初意見交換会



政府の改革案に異論が相次いだ意見交換会（山形市で）

【山形】JAグループ山形は1日、山形市で農協改革に関する自民党の県選出国會議員、県議との初の合同意見交換会を開いた。衆院の遠藤利明氏、鈴木憲和氏、加藤鮎子氏、参院の大沼瑞穂氏の4議員の他、県議25人、JA側から山形中央会の長澤豊会長、17JAの組合長や常勤役員と中央会、連合会幹部ら約60人が出席した。

長澤会長は「政府の改革案には、中央会を突破口にJAを解体へと迫りやるシナリオが見え隠れする」と指摘。「現場から積み上げた自己改革を尊重した改革案になるよう政府に強く働き掛けてほしい」と訴えた。

遠藤議員は「地域の声をしっかり反映させる形で、党の案を取りまとめる」と強調。「戦後復興にも貢献してきた農協の役割は、今後増えることはあっても、減ることは

ない。ネットワークを生かし、地域のユニバーサルサービス向上にむろまずまず頑張るってほしい」と述べた。他議員から「組合長からは「結論ありきの、歪曲(わいきょく)化した議論に憤りを覚える」「JAの監査がなぜ、単協の自由な競争を阻害しているといえるのか。公認会計士の監査とは目線が全く違う」など異論が相次いだ。